

第10回夕張市高等学校対策委員会会議録

- 日 時 平成27年10月27日(火) 午後6時～午後7時10分
- 場 所 夕張中学校 2階 多目的室
- 出席者 本田・石川・波佐尾・今・長田・白井・小網・外尾・黒瀧・小林委員
事務局 古村・堀

1 開 会

2 委員長挨拶 小林委員長

3 報告事項

- (1) 公立高等学校配置計画(平成28年度～30年度)について【資料1】
…………… 委員長より説明
- (2) 地域キャンパス校(北海道立平取高等学校)視察について【資料2】
…………… 事務局より説明

4 意見交換

- (1) 夕張高等学校の魅力化について
 - ①夕張高等学校の魅力化検討WGの検討結果【資料3】 …………… 事務局より説明
 - ②夕張高校の目指す教育【資料4】 …………… 今委員より説明

委員長	市のワーキンググループで提言した内容、それから夕張高等学校からは来年度以降の方針が出されました。 この2件を基に議論をしたいと思います。 いかがでしょうか。
委員	否応なしにキャンパス校向かうということでかなりの不安があったのですが、今日の北海道新聞の記事、そして今の校長先生からの説明での取り組み方、とても素晴らしいと思います。 自分もこういうことをやりたいと思ってこのような会議に出席させていただいたのですけれども、まさにすべてここに集約されていると思います。 よろしく願いいたします。

- 委員長 先ほど校長先生も言ったように、非常に長い時間をかけて、PTAも含めていろいろな方々と議論しながら煮詰めてきたというような経過があります。
- 私もこれを見ながら、非常に夕張は子どもの数が少ない状況の中で、一人ひとりに目を向けた高校での教育活動というのは、本当にこのとおりに行っていくために我々も努力しなければならないと感じたところであります。
- 他にご意見ありませんか。
- 委員 私も今のお話をうかがって、非常に素晴らしいことをお考えになられているなということで感動しているところでありますが、学校の魅力化と切っても切れない関係と言いますか、この中にも出てきておりますけれども、交通体制という部分で言うと、JR北海道が減便をほぼ決めたような感じで報道されている中で、通学に関する生徒の環境というものが、厳しくなるということが予想されるのかなと、その辺についてはワーキンググループの資料の中にも交通体制の整備ということが入っておりますが、例えば朝学習をする生徒が朝早く学校に行く手段ですとか、部活動に参加される生徒の、遅い時間の帰りの交通手段というところも問題になってくるのかな、というところが少し懸念されると感じております。以上です。
- 委員長 今回JRの減便の予定が出ましたけれども、一応公共交通協議会の中ではその通学については、一定程度の配慮をしたというようなことがあったのですか。
- 事務局 そうですね。朝は通学時間以外を減便、それ以外は飛び飛びで減便の形になっております。
- 委員長 JRの今後の問題を考えると、市の交通体系も、この高校の問題も含めて考えていかなければならない、そういう課題になってくるのだらうと思います。
- その他いかがでしょうか。
- 委員 このことについては、私も大賛成で、すばらしいものができたなと思います。
- ひとつ気になるのが、子どもの意識や保護者の意識、これをどのように作っていったら良いのかなというのが一番心配なところで、うちの小学校でも校長先生が言われたように、家庭学習の定着ですとか、学習規律だとか、学習習慣だとか色々やっているのですけれども、なかなか保護者にストレートに伝わっていかないという面があります。
- それで、どのように伝えて子どものことを変えて行こうか、ということは本当に悩んでいるところで、高校や市でいくらやっても、その辺が変わっていかないとなかなか私達の考え方も伝わっていかない、物が作られていかないということになるのではないかと思うので、これから考えて行かなければならないことはこ

のようなことなのかなと思っております。

今日は波佐尾さんもみえておりますので、保護者の意識ですとか、子どもたちの意識というのは、もし分かっているところがあれば聞かせていただきたいと思っております。

委員 先ほど校長先生からのお話しにもあったとおり、PTAの方でも意見交換をしてまいりました。

ただ、役員の中での意見交換というのが多いもので、これから必要なのはPTA会員、まず高校のPTA会員の皆さんとの意思の共通化、それから小学校中学校の皆さんとの共有化が急がれるのかなと思っております。

このようにして、今市と高校がすばらしい資料、また進めているのですが、保護者の方が知らないうちに進んでいくと置き去りにされているような、そのような意識が出てくるのかなと感じているので、その辺のところはPTAとしても動いていかなければいけないところだと思っております。

委員長 小中高の連携の問題ももちろんそうでありましてけれども、今PTAの方も小中学校高校が連携しながら課題について見つけいこうと、教頭先生から聞いたのですが、そのような方向で何か水面下で行っているようにお聞きしておりますので、長田校長いかがでしょうか。

委員 9月に保護者を対象とした説明会を開いていただいて、この資料を出していただきました。

生徒はオープンキャンパスに参加させていただいて、とても好評でした。

生徒たちの受けはとっても良かったと思いますし、またうちの教員もこの説明を聞いたときに、随分と分かり易くて良いということで好評でした。

この間、校長室で一人の生徒に進路指導で三者面談を行っていたのを聞いていたのですが、少し迷っている子がおりまして、そこでうちの教員が夕張高校は変わってきているし、間違いなく変わる、今までとは違うということで、この資料をもとに説明をしておりました。

先ほどの話にも出ておりましたけれども、このことを保護者、地域にどうやって浸透させていこうかなということで、広報では事々のことを盛んにページを割いていただいている、とてもありがたいなと思っております、中学校としても保護者の方には懇談会等を通して、この資料をもう少し分かり易くしてお知らせをしていきたいと思っております。

委員長 ありがとうございます。

その他何かありますか。

- 委員 資料の中でちょっと分からない点は何点かありまして、夕張高校魅力化の4本柱とありますが、これは市としてこういう形で取り組んでいきたいということだと思いますが、これを受けながら高校としては教育の中身について考えていきたいということだと思うのですけれども、資料3の最後のところに、具体的に日程を入れながらこういうような形で進めていきたいというものがありますけれども、高校はこれを受けながら、この日程に沿うような形で検討していくのかなと思うのですけれども、例えば寮の建設ですとかがあります、このようになってくると予算的なこととか、これがどのような形になるのか分からないのですが。
- 事務局 この寮の建設ですが、30年の4月という形になっておりますが、色々な提言という形で、その中に例えば部活動ではスキーで市外からの子どもたちを夕張に呼ぼう、夕張の高校に入ってもらおう、ということも考えられるのではないかと、とすればその時に必要になってくるもので、例えば寮があれば多くの方が来られるのではないかと、ということもあって、先ほども申しましたが、これがすべて決まりというものではありません。
- このようなことが考えられるのではないかとということで、できることからやってみましょう、できないことも中にはあるかもしれませんが、そのようなことで、寮の建設となると大きなものですから、今すぐとはなりませんけれども、この先、平成30年にはなっていますけれども、それがいつになるかは別として、このようなこともあるのではないかとということで、こちらに載せているところがあります。
- 委員長 一応30年までここに上げてはいますけれども、当然のことながら高校のその年その年の状況を見ながら、これらの課題に对应えられる、対応されない部分、色々出てくるだろうと思います。
- また、これ以外にも何か出てくるのかもしれませんが。
- それは積極的に市としても応援していくという立場での、このワーキンググループでのアクションプランということでもあります。
- 委員 最初私は下宿という、もし生徒が下宿するようなところがあれば一番良いなど考えていたところで、その方が生徒をしっかりと見てあげられる、そういう利点があるということから下宿というところを考えておりました。
- 市のワーキンググループにもお話しいたしました。
- ワーキンググループも色々と、野球のことから、私も日本の団体競技と言えば野球がどうしてもメインになるところがあるものですから、野球的なものも含めたら下宿ではすまされないところも今後は出てくる可能性もあるのかな、そのようなことから寮というようなところもワーキンググループから話があったというところは実際のところはありません。

ただ、これは現実としてどうなっていくのかはこれからの働きかけによって若干変わってくるものと思っております。

委員 アクションプランの中で、例えばアウトドア教育に対する補助ですとかがありますけれども、夕張としては有意義なところだとは思いますが、しかし、実際高校としてなかなか人的な問題ですとか、その他の問題でやり切れない中身も中にはあるのかなと思って見ていたのですが、そういうところは高校では内部的に検討しているのでしょうか。

委員 こういうことについて、ひとつひとつというのは今、まだやれている状態ではありません。

 相対的にカリキュラムからか、順次か、やれるものといいますか、生徒たちが輝ける内容として、具体的なことも含めながら進めていますけれども、シューパロ湖カヌーですとか、そういうところまでは、今の所は議論はしていないということでもあります。

委員 将来的には、議論によってはということですか。

委員 今ですね、これから 2020 年東京オリンピックが開催されますが、その東京オリンピックに向けて新しく出てくる競技等ありますよね、空手ですとか、その空手だとかも視野に入れても良いのかな、ですとかそういうところも含めながら東京オリンピックに向けての青少年の育成に本校が携わっていけるのは良いかなと、そういう認識も少し持っています。

 アウトドアというところには全体的にはまだ向かってはいないですが。

委員長 これは固定したものではありませんので、色々と節目の中で相談しながら取捨選択する場合と、また新たなものが出てくる場合がありますけれども、そういった理解でいてください。

委員 夕張高校の目指す教育に色々書いてあるのですが、たぶんスクールソーシャルワーカーの活用という中で、いわゆる困り感のある子どもたちの対応というのも含められているのかなと思うのですが、本校が抱えている大きな課題なんですね。そういった子どもに対する指導、あるいは組織全体としてそれに向かっていくということは。

 たまたま夕張には高等養護もありますので、そういう所の方々の知識や力も入れながらうまくやっていければな、そのようなことも大切なのかなと思っておりますので、老婆心ながらひとこと申し上げます。

- 委員 今スクールカウンセラーに来ていただいております。
それから、ソーシャルワーカーというのは、もっと経済的な家庭への支援という、少し観点が違うんですね。
ですから、これはあまり活用されておられません。
そこで、道に活用を要請したら非常に喜んでおりました。
あまり活用されていないから活用してくれということで、ぜひ活用してくれればなというふうに思います。
ただ、一件一件、ひとつの事案、ひとつの事案で要請しなくてはいけないという面倒さはありますけれども。
- 委員 いわゆるユニバーサルデザインの教育というのは、この夕張には大切なこれからの柱になっていくのではないかと思いますので、学校だけではなくて、ソーシャルワーカーであるとか、カウンセラーであるとか、関係機関を混ぜながら作っていくというのが大切だなと感じております。
- 委員 夕張市の池田さん、それから高等養護学校、そちらの方からも1ヶ月に1回か2回うちの学校と連携しております。
うちの学校の生徒を見に来ていたり、活用はしていると思います。
- 委員長 子ども・子育て支援係がこの8月1日から教育委員会の方にできて、今言われたような中身についても教育委員会の所管でやっている中身なので、それは単純に小学校中学校だけの問題ではなくて、すべてを対象にしながら色々連携し、現在やっているところであります。
いわゆる道のスクールソーシャルワーカーの活用について、個別の件として、非常に複雑なケースで利用することも、場合によっては出てくるのではないかと、市の相談体制だけで無理な場面も出てくるのではないかとということで、これらの活用については教育委員会としても色々考えていきたいなと思っております。
- 委員 アクションプランはかなりお金がかかることが入っていたりして、大丈夫かなという内容のものもありますが、これを我々が子どもや保護者の前で、夕張市としてこういうプランができている、大丈夫だよというふうに提示はできないのではないかと見ていたのですが。
これは広報などで出てしまいますか。
- 委員長 ここまで詳しい物ではありませんが、11月広報には出ます。
- 委員 例えば、海外の姉妹校と交換留学なんていうとすごく魅力的で、これは良いななんてことになることも考えられる。

事務局　　これがそのままということにはならないと思います。

委員　　載ってしまえば我々もそれを使うことができる。

委員長　　これとの整合性を図る必要があるし、それは予算要求をしてなんとか獲得していかなければならないものと、もう一つは方向性としてこの提案をしているということなので、これがこの通りすべてこの通りになりますよという中身ではないということだけは、これらは当然動いていきますから。

委員　　内部資料ですか。そうではない。

委員長　　もっと積極的な意味合いは持っている。

事務局　　市も色々なことを考えていますよ、ということであります。

委員　　ただ、この会議は公開ですから配布されている資料は見ようと思えば誰でも見られる資料だと思いますけれども。

委員　　我々もこのアクションプランには近づけた対応をしていかなければならないとは考えております。
例えば海外の学校と交換留学ですとか、これも今実際にプランニングを待っているところであります。
それに対して、留年しないで何か教科に振り分けながら、そして学年を進められるかどうかですとか、そのようなことを道教委と打ち合わせをしてきたりということは今考えているところであります。
このようなことを、ひとつひとつできれば良いなと考えております。
まったくの雲をつかむような話ではないということであります。

委員　　年度が、28年の4月からですので、その中でももちろんできるものもあるでしょうし、できないものもあるだろうし、なかなか難しいのかなと。
長いスパンで見えていければという中身であれば、もっともっと対応できるのではないか、実現できるのではないかという感じはしますけれども。

委員　　今懸念されているのは、ここに書いてあるけれども実現できなかつたら困るよね、という話ですよ。
逆に言うと、そういう声が上がるということは、そこに需要があるということですから、たとえばこれを中学生の子どもたちが見て、リアクションが大きかつ

たことに関しては、力を入れて優先的に進めるというような考えの判断材料にするという考え方はできないのでしょうか。

もちろん予算がなければできないことも多数あるので、一筋縄ではいかないと思うのですが、ここに羅列されている中で、じゃあどれが最優先なんだ、というのはやっぱり子どもたち、高校に入るのは中学生の生徒なので、そういうところの意識調査的な、これを期待しているんだなということが分かれば、そこを例えば行政や議会にしても、注力して予算を付けようということにもなると思うので、もうちょっと建設的な考え方に代えて行っても良いのかなと私は感じます。

事務局

市としては、高校にこういうこともあるのではないかとということで、高校と一緒に話しをしながら、これらに向けて進んでいくということですので、これが固まったものではないことはご理解願いたいと思います。

委員長

おそらく4年後、3年後のところまで、あくまでもこういう方向に向かって行くとは思いますが、ただ、ひとつひとつすべてがやり切れるかどうかというのは、当然子どもの数の問題もありますし、そういった色々な要素が出てくるので、それは相談しながらやっていくという形になるのではないかと思います。

比較的实现可能な、可能性の高いものと、一定程度の数が集まらないと無理だよねということも当然あると思います。

そういうことで捉えてください。

その他よろしいですか。

それでは意見交換についてはここで終了させていただきますが、今後の日程も含めて事務局よりお願いいたします。

先ほども言うておりました27年度中に予算の問題と、情報発信については広報も、ホームページも含めて行っているところでもありますので、予算上の問題もありますので、その辺も含めてになります。

6 その他

事務局

今後の対策委員会の開催であります。ただ今話し合われたことを対策委員会として市の方にも申し入れしたいと考えております。

このようなことも考えまして、11月の末から12月の中旬あたりに第11回目の高校対策委員会を開催させていただければと思っております。

また、近くなりましたらご案内は差し上げたいと思っております。

委員長

よろしいですか。

今回は対策委員会もそうですし、教育委員会もそうでありますけれども、考え方をもう少し整理をして、予算上の問題もありますので、それらも併せて提案で

きるようにしたいと思っております。

それでは以上をもちまして第10回の高校対策委員会を終了いたします。

お疲れまでした。

7 閉 会

配布資料等一覧

- 資料1 公立高等学校配置計画（平成28年度～30年度）に関する資料
- 資料2 地域キャンパス校（北海道立平取高等学校）視察に関する資料
- 資料3 夕張高等学校の魅力化検討WGの検討結果
- 資料4 夕張高校の目指す教育